

第167回和光市環境づくり市民会議定例会(全体会議)要旨

日 時 令和3年4月20日(火) 午後3時～午後5時15分
場 所 602会議室
出席者 7名
 峯岸正雄、高橋勝緒、高橋絹世、友國洋、松田廣行、安井尚彦、渡辺康三
傍聴者 なし
事務局 市民環境部次長兼環境課課長 末永、主幹 加藤、中島

1 開会

- 峯岸会長から開会のあいさつ
- 令和3年4月の人事異動に伴い、環境課 末永課長、中島からあいさつ

2 議題

(1)令和3年度の年間スケジュールについて

(事務局説明要旨)

- 令和元年度の環境施策実施状況評価の時期については、第3次和光市環境基本計画の策定があったことから前倒しで行ったが、令和2年度の環境施策実施状況評価は例年と同様の時期に行う予定。
- 第3次和光市環境基本計画実行計画の策定については、会員のみなさんのご意見を伺って、策定作業を進めたい。
- 7月に「フィールドワーク」を設定したが、コロナウイルスによる影響が避けられない状況での、「フィールドワーク」の実施の是非、また、「フィールドワーク」を実施する場合の場所や時期について、会員の方のご意見を伺いたい。

質問・意見等

- 第3次和光市環境基本計画が3月に出来上がっているのに、環境基本計画実行計画を策定するのが8月まで遅くなるのは何故か。5、6月が未定なので、これは庁内での作業が必要ということなのか。
→ (事務局) 今のところ、そのように考えている。
- 5、6月のスケジュールが未定となっているので、7月のフィールドワーク等を5月に実施してもよいのではないか。
→ (議論の結果) フィールドワークを実施する。時期は6月の梅雨入り前、場所は大坂ふれあいの森に決定。日にちは事務局で決定し、後日連絡する。

(2)各団体による報告

- NPO法人 和光・緑と湧き水の会
湧き水の会のコンセプトとしては、身近な自然を知り、守り、活かす、これが湧き水の会のキャッチフレーズである。この前身として、緑と湧水と流れの会が1998年に発足した。和光市の武蔵野台地末端部の調査会からスタートし、和光

市都市整備課と和光市の湧水環境調査を3年間続けた。その時、新倉ふれあいの森、大坂ふれあいの森、上谷津ふれあいの森、午王山を調査した。そこから、市は調査するだけで終わってしまうので、市民が守る活動を行おうということで、改めて活動を開始したのがNPO法人和光・緑と湧き水の会である。2008年には大坂ふれあいの森がオープンした。大坂ふれあいの森は斜面林と湧水があり、貴重なカタクリやイチリンソウもあり、都市部では非常に珍しい武蔵野台地末端部の特徴を持った湧水地である。その他の活動拠点としては、富澤湧水がある。和光市の湧水としては最も水量が多く、街の生活の中で湧水を活用している湧水文化の残る湧水地である。ここは、2015年に白子宿特別緑地保全地区に指定された。最後に、和光樹林公園。ここでは、公園内に、どんぐりの森というのを作ったり、ヒロハアマナを保護している。昔、ヒロハアマナは谷中地区に分布していたが、谷中が区画整理で無くなる時に、樹林公園に移植し、現在、公園内の2区画に保護区を設けて保護している。会では、1箇所につき、1か月に1度活動している。全部で4箇所あるので、年間約50回活動している。保全活動以外では、今年の3月に、環境課と協働で和光市自然環境マップを作成した。マップで巡る観察会を年に数回行っていたので、これも継続したいと考えている。

質問等

- 富澤湧水の斜面自体はどのように維持するのか。
→先日、斜面の巨木の枝落としをした。急斜面だが、植物があることで根が支えられている。また、斜面は武蔵野台地の礫層からなっていて、礫層は地震でも崩れにくい。急斜面で現状以上に手を加えることはできないが、シュロの木が急斜面を崩れにくくしてくれている。
- 名称は白子宿特別緑地保全地区となっているが、富澤湧水というのは、その下の駐車場の辺りのことなのか。
→白子宿特別緑地保全地区に指定されるときに、地主の方が名前を残してほしいという希望があって、富澤湧水と呼んでいる。
→特別緑地保全地区というのは、都市計画法の指定なんだと思う。土地はまだ私有地だが、特別緑地保全地区指定なので、将来的には、公有地化の対象になると思う。また、所有している地権者の方から、かなり急斜面で危険なので、勝手に入るのは控えてほしいという意向があり、我々が観察会などで入るのはよい事になっている。
- NPO法人 太陽光発電所ネットワーク埼玉
午王山は、高校生が、去年は1回だったが、コロナ前は年3回保全活動をしてきている。先生5、6人、生徒が28人ぐらいです。
- 和光自然環境を守る会
4月3日に総会を開いた。美化活動は毎年平均25回ぐらい実施しているが、去年はコロナの影響を受けて12回にとどまった。それから、環境省が海洋プラスチック問題で全国的なごみ拾い活動を展開し、埼玉県も一昨年からそれをテーマにした回収をしており、10月3日にごみ回収を実施した。集めたゴミの量は

30Lのゴミ袋が11袋。そのうち、6袋がプラスチックごみだった。

環境啓発活動としては、川の水質調査ということで、荒川、新河岸川、越戸川、谷中川の合計10ヶ所でサンプル取水して、様々な分析をしている。昨年は6月21日に実施し、17年連続で実施している。越戸川の水質だが、川全体を通じてCODが0.2ぐらいで、上流から下流まで川の水の殆どが湧水のため、非常にきれいである。COD0.2は清流の分類に入る。清流の定義はないが、一般的に言われているのが、自分の顔を洗ってもいいと思う川が清流だそう。5年程前に、東京大学の工学部の修士の方が、越戸川を対象に調査し、修士論文を書いた時に、ポテンシャルが非常にある川なので大事にしてくださいという結論があった。

その他、新倉小学校の5年生を対象に総合学習支援を行った。10月16日に生徒97名、引率の先生4名で川へ行き、魚とりなどを行った。そして、11月4日に川のことについてQ&A形式で出前授業をした。その前日に、川に毒が混入し、鮎がほとんど死んでしまったのだが、その鮎を学校に持っていき、話をしたところ、生徒達はとても印象に残っていたようだった。

また、小学校5年の時に川の会に入り、現在大学3年生になったメンバーが、川づくり連絡会主催の”川で繋がる発表会”で発表し個人表彰された。若い人が育っているのを嬉しく思う。また、東京海洋大学に進学し、魚を専門に勉強している人もいる。

朝霞県土の仲介で、東洋大学理工学部青木研究室と一緒に研究をスタートしている。越戸川の出口から2キロぐらい遡った場所に1.5メートルほどの段差があり、そこから上流には魚が行けないようになっている。そこに、トヨを利用した魚道を作り、鮎がその魚道を使って上流へ行けるよう仮設置をしている。これから、埼玉県南部漁業協働組合が荒川で今年の稚魚を捕獲したら、分けてもらって、ここで遡上実験をするつもりだ。

今年もコロナ感染に気を付けて、活動できる事についてはやっていきたい。

質問等

- 朝霞市との境目を流れているが、朝霞の人との連携はあるのか。
→会員の中には、朝霞の人もいる。

(3)その他

- 埼玉県地球温暖化対策西部地域協議会連絡会について
- 会報紙「環」の発行について

3 閉会